

国際展開・社会連携研究支援プログラム

部会代表者：文学部・教授 矢野 桂司

部会副代表者：衣笠総合研究機構・准教授 板谷 直子

研究メンバー：大窪 健之、小川 圭一、鐘ヶ江 秀彦、河角 龍典、土岐 憲三、
中谷 友樹、ロヒト・ジグヤス

【研究計画の概要】

第6部会：国際展開・社会連携研究支援プログラムでは、2014年度以下の項目を実施する計画である。

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業【○ジグヤス、板谷、大窪、鐘ヶ江、土岐】

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修を継続して実施する。また、インドネシア公共政策立案研修（防災）等への協力を継続する。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援【○板谷、大窪、ジグヤス】

UNESCO Chair 国際研修を修了した研修者が、自国の文化遺産や歴史都市を対象に地域研修等を開講するなど、日本での経験を自国の文化遺産防災に資する活動に活かそうとする際、プログラム構成の指導や講師派遣等を行い支援するとともに、地域研修の体制づくりの支援や、これに必要な国際機関との連携などを進める。

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用【○ジグヤス、土岐、大窪、板谷】

2012年度作成版のトレーナーズガイド、上記(1)(2)の文化遺産防災に関わる研修事業の支援を踏まえた、トレーナーズガイドについて、継続して実用性の向上に取り組む。

(4) 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携【○土岐】

世界文化遺産というフィールドでの人材育成と研究成果の社会還元を目的に、「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携を強化する。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発【○中谷、河角、板谷、矢野】

世界文化遺産に特化した“文化遺産防災情報共有システム（仮称）”の構築に向けて、リスト化された地理空間情報の中で、GIS化できかつ、公開可能なものに関して、「文化遺産防災情報共有システム（仮称）」に順次あげていく計画である。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援【○大窪】

世界遺産“カトマンズの谷”パタン地区を事例とした、文化遺産防災計画を具体化するための研究を、歴史都市防災計画研究部会とともに進める。今年度以降は地区内でコミュニティ活動が活発なイラナニ・ナグバハ地域を重点対象に設定し、防災計画の実現に向けたコミュニティ活動の実態調査や防災ワークショップを行い、実施計画を考慮した防災計画へとブラッシュアップを図る。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携【○矢野、中谷、河角】

本学アート・リサーチセンターで構築された歴史都市京都のGISデータ、文化財のデジタル・アーカイブ、古写真データベース、などを活用した、歴史都市防災研究を展開する。特に今年度以降は、2009・2010年度の京都市、(公)京都市景観・まちづくりセンター、立命館大学の3

者で実施した京町家まちづくり調査の京町家 GIS データや、近代京都の GIS データの活用と、京都市指定文化財の長江家住宅（下京区）の調査などを重点化していく。

(8) 「文化遺産防災ハンドブック（Ver.1.0）」の改訂に向けた資料・情報収集【○大窪、小川】

文化遺産防災ハンドブックを改訂・追記するための準備を進める。2012 年度に刊行した「文化遺産防災ハンドブック（Ver.1.0）」に防災情報などを加え、2015 年度に Ver2.0 を刊行するための準備を行う。

(9) WCDRR 2015（仙台）に向けての準備【○大窪、土岐】

第 3 回国連防災世界会議 WCDRR が、2015 年 3 月 14 日（土）～18 日（水）仙台において開催される予定である。ここに文化遺産防災に関するテーマ別会合を設置し事務局としての準備作業を行う。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

第 6 部会：国際展開・社会連携研究支援プログラムでは、2014 年度以下の 9 項目を実施した。

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業

1) 立命館大学 UNESCO Chair 「文化遺産と危機管理」国際研修の実施

2014 年 9 月 6 日～9 月 22 日、第 9 回目となる立命館大学 UNESCO Chair 「文化遺産と危機管理」国際研修 2014（UNESCO Chair Holder: ロヒト ジグヤス）を実施した。

2) インドネシア政府防災研修、タイ王国の大学との国際共同ワークショップ等への協力

①インドネシア政府防災研修

2014 年 11 月 2 日から 11 月 15 日にかけて、インドネシア各地の大学教員、国家、地方公務員ら計 25 名を対象に、「インドネシア政府防災研修＜第 4 期＞」を実施した。

②インドネシア・ジョグジャカルタ政府関係者の研修

2014 年 11 月 8 日から 18 日に、インドネシア・ジョグジャカルタ州の政府関係者 13 人を対象に、「Executive Training and Workshops on Urban Heritage Conservation Planning and Management」をテーマとした研修が行われた。

③タイ・チュラロンコン大学との国際共同ワークショップ

2014 年 4 月 19 日から 4 月 27 日に、立命館大学政策科学研究科・立命館大学歴史都市防災研究所・チュラロンコン大学環境研究所が主催した国際共同ワークショップが立命館大学で行われた。

④タイ・タマサート大学との国際共同ワークショップ

2014 年 12 月 13 日から 25 日にかけて、12 回目を迎える立命館大学政策科学部・歴史都市防災研究所 & タイ王国国立タマサート大学建築学部の共同ワークショップを実施した。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援

ミャンマー地域研修での講義指導

2014 年 8 月 13 日～8 月 17 日、ミャンマー連邦共和国の Pyu Ancient Cities, World Heritage Site（世界遺産 ピュー王朝の古代都市群）に存するシュリー・クシェトラにおいて、地域研修 Workshop on Disaster Risk Management of Cultural Heritage in Myanmar を実施した。

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用

国際研修をもとにした汎用性のある英語版 DVD 教材を作成した。

(4) 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携

2014年2月6日、立命館大学朱雀キャンパスで行われた第3回世界遺産「古都京都の文化遺産」ネットワーク会議に続き、2014年11月2日知恩院御影堂で行われた「親子で学ぶ、知恩院 修理現場見学！」を支援した。

2015年3月14日に立命館大学朱雀キャンパスホールにて実施されるシンポジウム「祇園祭の明日～よみがえった後祭巡行と大船鉦の復帰～」も「明日の京都」に関わる活動であり、これを支援している。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発

世界文化遺産に関連する地理空間情報を収集、GIS 化し、公開する WebGIS システムとして、「文化遺産防災情報共有システム（仮称）」の試験版プラットフォームを構築した。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援

世界遺産“カトマンズの谷”パタン地区を事例とした、歴史都市の防災計画を具体化するための研究を実施した。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携

アート・リサーチセンターと連携して、以下の3つの事業を展開した。

- 1) 近藤豊写真資料（京都府立総合資料館蔵）の Web 公開 (<http://www.arc-ritsumei.com>)
- 2) 「長江家住宅」の利活用に関する調査研究
- 3) 京都市明細図（長谷川家所蔵）のデジタル化及び GIS 化

(8) 「文化遺産防災ハンドブック（Ver.1.0）」の改訂に向けた資料・情報収集

各研究部会において、ハンドブックを改訂・追記するための調査を進めている。

(9) WCDRR 国連防災世界会議 2015（仙台）に向けての準備

- 1) 防災減災に関する国際研究のための東京会議

2015年1月14日～1月16日東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホールにて、防災減災に関する国際研究のための東京会議 Tokyo Conference on International Study for Disaster Risk Reduction and Resilience - 災害リスクの軽減と持続可能な開発を統合した新たな化学技術の構築に向けて - に参加した。

- 2) 第3回国連防災世界会議「文化遺産防災に係る国際専門家会合」

2015年3月14日～3月18日、第3回国連防災世界会議 WCDRR が、仙台において開催される。

- 3) 国連防災世界会議パブリックフォーラム（関連事業）

2015年3月16日 13:00-16:00、仙台市情報・産業プラザ (AER) にて、歴史都市防災研究所は、「歴史都市防災シンポジウム仙台—東日本大震災に学ぶ歴史都市防災まちづくりへ向けて—」を開催する。

Ⅱ. 研究成果の詳細

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修の実施

担当：ロヒト・ジグヤス、大窪健之、板谷直子

2014年9月6日～9月22日、第9回目となる立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修 2014（UNESCO Chair Holder: ロヒト・ジグヤス）を実施した。（本報告書行事報告に詳報する）

今年度は、'Protecting living cultural heritage from disaster risks due to fire' をテーマに、アルバニア、オーストラリア、クロアチア、エクアドル、エジプト、フィジー、ホンジュラス、インド、インドネシア、イラク、ニュージーランド、パキスタン、タイから計 14 名の研修者を招聘して、歴史都市防災研究所、京都の世界遺産登録社寺、兵庫県神戸市、宮城県南三陸町で、講義、見学、ワークショップを行った。今年度から、トヨタ財団イニシアティブ・プログラムの助成を受け、かねてから懸案であった参加枠を拡大して実施することができた。また、国際機関の専門家、過年度の研修者を講師として迎えることができ、より充実した国際研修とすることができた。

歴史都市防災研究所からは、土岐憲三教授、ロヒト・ジグヤス教授、伊津野和行教授、藤本将光助教、大窪健之教授、深川良一教授、矢野桂司教授、板谷直子准教授が（講義順）が講義および指導にあたった。また、石田優子、金度源、崔明姫各衣笠総合研究機構専門研究員、米島万有子立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員が、見学やワークショップの補佐にあたり、国際的な研修活動の実績を積んだ。

第9回 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修 2014 の成果は、英文報告書にまとめ 2015 年 2 月に刊行し、関係国際機関担当者、講師、研修者に配布する。

インドネシア政府防災研修、タイ王国の大学との国際共同ワークショップ等への協力

担当：鐘ヶ江秀彦、豊田祐輔

①インドネシア政府防災研修

2014 年 11 月 2 日から 11 月 15 日にかけて、インドネシア各地の大学教員、国家、地方公務員ら計 25 名を対象に、「インドネシア政府防災研修<第 4 期>」を実施した。研修の前半は、立命館大学で学内外の専門家による「産業防災」、「防災経済」、「復興計画」、「土砂災害」、「気候変動」、「コミュニティ防災」、「被災者の心理ケア」など様々な分野からの防災に関する講義を開いた。また、後半は東日本大震災の被災地でフィールドワークを実施し、岩手県陸前高田市、大船渡市での復興担当行政官へのヒアリング、大槌町、釜石市花露辺地区の住民たちへの被災状況に関するインタビュー、宮古市田老地区の高台移転計画が進む工事現場の視察などを行った。最後に、日本の事例で学んだことを自国でどう生かすかという課題の発表会が行われ、住民の避難計画や、防災事業における行政、研究者、住民等の連携に関して検討が行われた。



国際研修 2014 英文報告書

②インドネシア・ジョグジャカルタ政府関係者の研修

2014年11月8日から18日に、インドネシア・ジョグジャカルタ州の政府関係者13人を対象に、「Executive Training and Workshops on Urban Heritage Conservation Planning and Management」をテーマとした研修が行われた。その一環として、立命館大学歴史都市防災研究所は、11月12日に文化遺産防災分野の専門家を迎え、講義を実施するとともに、京都の竜安寺、金閣寺での視察を行った。また11月13日には姫路城でフィールドワークを実施するとともに、姫路市役所に訪問し、姫路市に行われている文化遺産保存継承に関する取り組みを学んだ。この研修は、同じく世界遺産など貴重な文化遺産を多く擁するジョグジャカルタにおける文化遺産保存計画の改善と、地域、社会文化のアイデンティティの強化を図ることを目的とした。

③タイ・チュラロンコン大学との国際共同ワークショップ

2014年4月19日から4月27日に、立命館大学政策科学研究科・立命館大学歴史都市防災研究所・チュラロンコン大学環境研究所が主催した国際共同ワークショップが立命館大学で行われ、チュラロンコン大学の教員1名、研究員1名、学生12名と、立命館大学の政策科学学部学生10名が参加された。ワークショップは、伝統的景観・建築における防災の重要性と、歴史的地域におけるコミュニティ防災を促進していくための方策について、現地調査を通じて学び、成果を還元することを目的とした。ワークショップに参加した学部生・大学院生たちは、歴史都市、防災、伝統的建築、ゲーミング・シミュレーションに関する講義、2013年9月に洪水被害を受けた南丹市園部地区における視察・調査、発表会を通じて、洪水防災の課題ならびに今後の改善策に対する建築学（チュラロンコン大学）ならびに政策科学（立命館大学）の視点を融合し多角的視点を取り入れた改善策の提案を行った。

④タイ・タマサート大学との国際共同ワークショップ

2014年12月13日から25日にかけて、12回目を迎える立命館大学政策科学部・歴史都市防災研究所 & タイ王国国立タマサート大学建築学部の共同ワークショップを実施した。ワークショップでは、タマサート大学建築学部生37名と教員3名、立命館大学政策科学部タイフォーラム学生6名、教員数名が参加され、「京都における都市開発と歴史・文化都市保全への政策形成」を研究課題とし、講義、清水寺、東本願寺、上七軒商店街などでのフィールドワーク、討論会、発表会が行われた。このワークショップを通じて、異文化や両国の相違を学ぶとともに、学生という枠にとらわれない柔軟な発想を持った視点、そしてタイという同じ仏教圏でありながら異なる文化・慣習を背景とした学生から見た京都の課題や改善策の提起を行った。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援

ミャンマー地域研修での講義指導

担当：ロヒト・ジグヤス、大窪健之、板谷直子

2014年8月13日～8月17日、ミャンマー連邦共和国のPyu Ancient Cities, World Heritage Site（世界遺産 ピュー王朝の古代都市群）に存するシュリー・クシェトラにおいて、地域研修 Workshop on Disaster Risk Management of Cultural Heritage in Myanmar を実施した。



ミャンマー研修2014参加者と講師

本地域研修は、ミャンマー政府文化庁が主催し、ユネスコバンコック事務所、立命館大学歴史都市防災研究所が共催したものである。参加者は、ミャンマー文化庁遺産国立博物館局副局長および国立博物館局副代表、をはじめとするサイトマネージャーら約 30 名であった。

ミャンマーでは本年度初めて、世界遺産ピュー族の古代都市群が登録されたが、防災対策の不足が課題となっている。ここで、当該の講義指導を行い、立命館大学の取り組みを示した。

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用

国際研修をもとにした汎用性のある英語版 DVD 教材の作成

担当：ロヒト・ジグヤス、板谷直子

歴史都市防災研究所では、2012 年度に、UNESCO・ICCROM とともに、トレーナーズガイド（教則本）“TRAINING GUIDE on Disaster Risk Management of Cultural Heritage in Urban Environment (ISBN: 978-4-9907044-0-7)” を刊行し、世界の関係機関に配布した。本 DVD は、既刊のトレーナーズガイド（教則本）をデータ化し、その内容をわかりやすく説明する動画を加え、各国で地域研修が行えるようにするためのものである。本 DVD は、トレーナーズガイド（教則本）の著者のひとりである Vanicka Arora 氏の協力を得つつ、作成を進めている。

(4) 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携

担当：土岐健三

2014 年 2 月 6 日、立命館大学朱雀キャンパスで行われた第 3 回世界遺産「古都京都の文化遺産」ネットワーク会議に続き、2014 年 11 月 2 日知恩院御影堂で行われた「親子で学ぶ、知恩院 修理現場見学！」を支援した。また、2015 年 1 月 18 日に立命館大学朱雀キャンパスホールで開催された第 4 回のフォーラム「記録が結ぶ [時の絆] ～世界記憶遺産～」において活動報告を行った。2015 年 3 月 14 日に立命館大学朱雀キャンパスホールにて実施されるシンポジウム「祇園祭の明日～よみがえった後祭巡行と大船鉾の復帰～」も「明日の京都」に関わる活動であり、これを支援している。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発

文化遺産防災情報共有システムの構築

担当：矢野桂司、河角龍典、中谷友樹

世界文化遺産に特化した“文化遺産防災情報共有システム（仮称）”の構築に向けて、リスト化された地理空間情報の中で、GIS 化できかつ、公開可能なものに関して、「文化遺産防災情報共有システム（仮称）」に順次あげていく計画である。そのためのプラットフォームとして、ArcGIS Online を活用したシステムを、現在、文学部地理学教室とアート・リサーチセンターと連携しながら構築している。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援

世界遺産“カトマンズの谷”パタン地区を事例とした、歴史都市の防災計画を具体化するための研究について、地区住民との協働により、地域防災力の向上と計画の実践へ向けて継続的に支援を行っている。具体的には、歴史都市防災計画研究部会の節にて詳報する。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携

担当：矢野桂司、河角龍典、中谷友樹

本学アート・リサーチセンターと連携しながら、以下の調査・研究を行った。

1) 近藤豊写真資料（京都府立総合資料館蔵）の Web 公開

京都府立総合資料館との共同研究により、近藤写真資料約5万点の写真をデジタルアーカイブ化し、WebGISと連動させたデータベースをWeb上に試験公開した。過去のアナログのフィルムにおいて、地図上にここまで大量の写真資料を、場所と撮影日の情報を添えてプロットしたのは国内初の試みといえる。

近藤写真資料は、寺社建築を中心とする写真ネガであり、建築史の研究者であった近藤豊氏によって1930（昭和5）から1983（昭和58）年にかけて撮影された約6万枚におよぶ古写真資料で、現在は京都府立総合資料館に寄贈されている。1枚1枚のネガに対して対象物と撮影日が書かれているのが特徴です。本研究では、WebGISを用いて、写真が撮影された場所を特定して地図上からも空間的に見られるようにすることを目的として行いました。

例えば、近藤写真資料には1957（昭和32）年から1975（昭和50）年にかけて約2,700枚の祇園祭に関連した写真があり、デジタルアーカイブ化し地図上に記載することで、1965年の後祭最後の年の三条通での山鉾巡行の様子や、船鉾町内での山鉾行事の運営の様子や街並みの時代に伴った変化を容易に知ることができる。他にも、今では撮影が困難であったり、現在では撮影の難しい北朝鮮の平壤や、戦前における韓国各地の仏教寺院の写真なども容易に見ることができる。<http://www.arc-ritsumeicho.com/>

2) 「長江家住宅」の利活用に関する調査研究

四条新町二つ筋目下がる船鉾町に建つ「長江家住宅」は、京都市指定有形文化財の大型京町家で、その維持・保全が課題となっており、京都市文化財保護課、京都市景観・まちづくりセンター、その他有識者等による保全・活用が検討されている。

「長江家住宅」は、呉服商を営む、職住一体型の典型的な町家の佇まいを今に伝える数少ない京町家で、建物は間口7間、奥行30間、総敷地面は200坪（700平米）余である。

現在、「長江家住宅」の所蔵品、京都の商家の歴史・文化等学術資料は立命館大学が寄贈を受ける予定で、京町家・収蔵品のデジタルアーカイブ、「長江家住宅」の建具・日用品、京都の商家の歴史・文化等学術資料を活用した調査研究を次年度も継続して進める計画である。

3) 京都市明細図（長谷川家所蔵）のデジタル化及びGIS化

2014年9月に、長谷川家住宅（京都市南区東九条東札辻町5の宅厨子二階）において、京都市明細図の初版の286枚が発見された（1枚欠）。これは、2010年12月に京都府立総合資料館で発見された戦後の書き込みのある京都市明細図のオリジナルで、その現物が確認されたのは今回が初めてである。

その所有者である長谷川家住宅の中川聰七郎氏より、デジタル化の依頼を受け、スキャンニングと、現在の地図との位置合わせをGIS上で行った。現在、この資料の作製年代を検討しているが、四条通上がる河原町通の拡幅や市電の付設の状況から大正15年代の様子が描かれており、それ以降の発行と思われる。

この長谷川家明細図では、京都府立総合資料館の紙を貼り付けられて更新された状態の以前の戦後初期の京都の様子が描かれたものとして極めて資料的価値が高い。今後、昭和初期の京都市の都市計画はもちろん、様々な研究に活用されることが期待される。

(8) 「文化遺産防災ハンドブック（Ver.1.0）」の改訂に向けた資料・情報収集

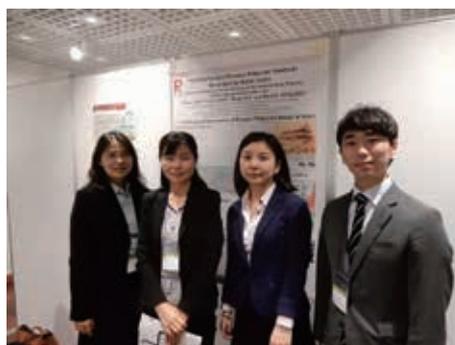
担当：大窪健之、小川圭一

各研究部会において、ハンドブックを改訂・追記するための調査を進めている。具体的には、各メンバーがこれまで取り組んできた研究成果をシートに整理している。これを電子化を視野に入れて整理することにより、文化遺産防災を実現するためのプロセスに沿って、具体的な調査、分析、提案、評価の作業を推進するためのツール集の編集を目指している。

(9) WCDRR 国連防災世界会議 2015（仙台）に向けての準備

1) 防災減災に関する国際研究のための東京会議

2015年1月14日～1月16日東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホールにて、防災減災に関する国際研究のための東京会議 Tokyo Conference on International Study for Disaster Risk Reduction and Resilience - 災害リスクの軽減と持続可能な開発を統合した新たな化学技術の構築に向けて - が実施された。主催は、日本学術会議、国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)、災害リスク統合研究 (IRDR) などである。本会議の成果文書は、第3回国連防災世界会議に提出される。



専門研究員のポスターセッション解説

歴史都市防災研究所からは、大窪・ジグヤス・板谷が「文化遺産と危機管理」国際研修について、また、金度源・石田優子・崔明姫・米島万有子・各専門研究員が「本願寺水道の再生と防災活用」について口頭発表し、ポスターセッションで解説にあたった。

2) 第3回国連防災世界会議「文化遺産防災に係る国際専門家会合」

2015年3月14日～3月18日、第3回国連防災世界会議 WCDRR が、仙台において開催される。国連防災世界会議は、国連主催による国際的な防災戦略を策定する会議で10年に一度開催される。参加者は、各国首脳、閣僚、国際機関代表、国際認定 NGO など全体で延べ4万人以上の参加が想定されている。会議は、政府間会合、テーマ別会合等の本体会議、また、シンポジウムや展示などの一般公開の関連事業等で構成される（内閣府 HP より引用）。

2015年3月に仙台で開催される第3回国連防災世界会議では、立命館大学が COE 拠点を基盤として10年以上にわたり取り組んできた研究活動や、9回にわたって実施してきた国際研修活動などを踏まえ、文化遺産防災が国際的な重要テーマであることを国内外の防災関係者に強調し、成果文書の中にも重要性と必要性を明記するべく、文化遺産防災をテーマとした国際専門家会合の実施に向けて、文化庁を中心にチームを構成して準備を進めているところである。

3) 国連防災世界会議パブリックフォーラム（関連事業）

パブリックフォーラムは、災害に強い国やコミュニティづくりに寄与するため、広く防災に関する関心を高めることを目的に実施する、国連防災世界会議の関連事業である。

4) 会議形式のイベント：「歴史都市防災シンポジウム仙台」

2015年3月16日13:00-16:00、仙台市情報・産業プラザ (AER) にて、歴史都市防災研究所は、「歴史都市防災シンポジウム仙台—東日本大震災に学ぶ歴史都市防災まちづくりへ向けて—」を開催する。シンポジウムでは、これまで歴史都市防災研究所において行ってきた①南三陸町の復興調査②文化財の被害調査と地図化の成果、③津波避難所となった社寺の調査研究につい

て、地域の大学研究者や市民活動家を交えてのパネルディスカッションを行う。

5) 防災・復興に関するブース展示：歴史都市防災研究所 研究活動紹介

2015年3月14日～18日、せんだいメディアテーク5・6階ギャラリーにて、ブース展示を行う。

別々の学問として取り組まれてきた人文社会学における文化を保全するための分野と、理工学における都市や建築を災害から守る分野を融合した「文化遺産防災」というテーマの下で、歴史都市防災研究所が取り組んでいる研究活動について紹介を行い、これまで防災分野において注視されていなかった、文化財や歴史遺産の災害からの保全・継承の重要性について、国内外の専門家や実務家だけでなく、市民にも情報発信を行う。さらには、文化遺産や歴史都市の持つオリジナリティを損なわずに、地域に根ざしたコミュニティや伝統、水や緑などの地域資源を活かした減災に取り組む必要について啓発することを目的とする。

本ブース展示は、若手研究者の研究を通して歴史都市防災研究所の活動を紹介しようとするものである。

Ⅲ. 今後の研究計画・展開

文化遺産の防災に関わる国際的研修事業は、歴史都市防災研究所の国際展開において重要な活動である。したがって、国内においては主に途上国から文化遺産の専門家と防災の専門家を招聘して実施する「文化遺産と危機管理」国際研修を継続する。また、各国においては、国際研修のフォローアップとしての地域研修を今年度に引き続きミャンマー等で検討する。文化遺産防災国際研修トレーナーズガイドについては、国際研修および地域研修での活用、また、webでの公開を通して汎用性を高める。

社会貢献の側面では、「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携を今後とも進める。また、国際研修の研修者からも関心が高く、今後の文化遺産防災の強力なツールとなることが予測されるGISに関しては、様々な地理空間情報をWebを通して配信するシステムを現在構築しており、防災研究の基礎的データとし活用されることが期待されている。

Ⅳ. その他特記事項

ロヒト・ジグヤス教授は、2014年11月にイタリア共和国フィレンツェにて開催された第18回ICOMOS（国際記念物遺跡会議 / International Council on Monuments and Sites）総会において、35名の候補者の中から、20名からなる執行委員会の執行委員（任期3年）のひとりにも選出された。氏が、執行委員に選出されるのは、2011年の第17回ICOMOS総会に続き2度目となる。

ロヒト・ジグヤス教授は、2009年10月からICOMOS-ICORP（イコモス文化遺産防災国際学術委員会）委員長にも継続的に選出されており、当該分野の国際組織において重要な役割を果たしている。